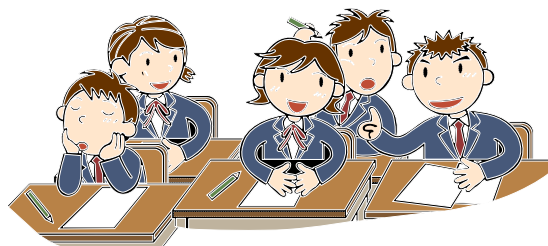


平成 22 年度鹿児島市学校教育研究大会の実践研究報告

I 研究主題について

1 重点目標

- (1) 言語活動の充実に努める。
- (2) 学業指導の充実に努める。
- (3) 心の教育の充実に努める。



2 研究主題設定にあたっての課題

(1) 学習指導

- ・ 基礎学力の定着を図る指導のあり方
- ・ わかる授業の創造、学習に対する興味関心を高めるための方策
- ・ 主体的に取り組ませるための方策
- ・ 生徒の実態に応じた学習課題の工夫と設定

(2) 生徒指導

- ・ 自ら生活を改善する意志や意欲を持つ生徒の育成
- ・ 学校における人的環境の醸成（生徒対生徒、生徒対教師の望ましい人間関係）
- ・ 心に届く教育の実践
- ・ 生徒の主体的な学習を促す教育活動の展開

※ 上記課題を考慮し、次のような研究主題及び研究仮説を設定した。

自ら考え判断し、表現できる力を育む教育活動の展開

～教科の時間における言語活動の充実に目指して～（1／2年次）

3 研究の仮説

研究の仮説 1

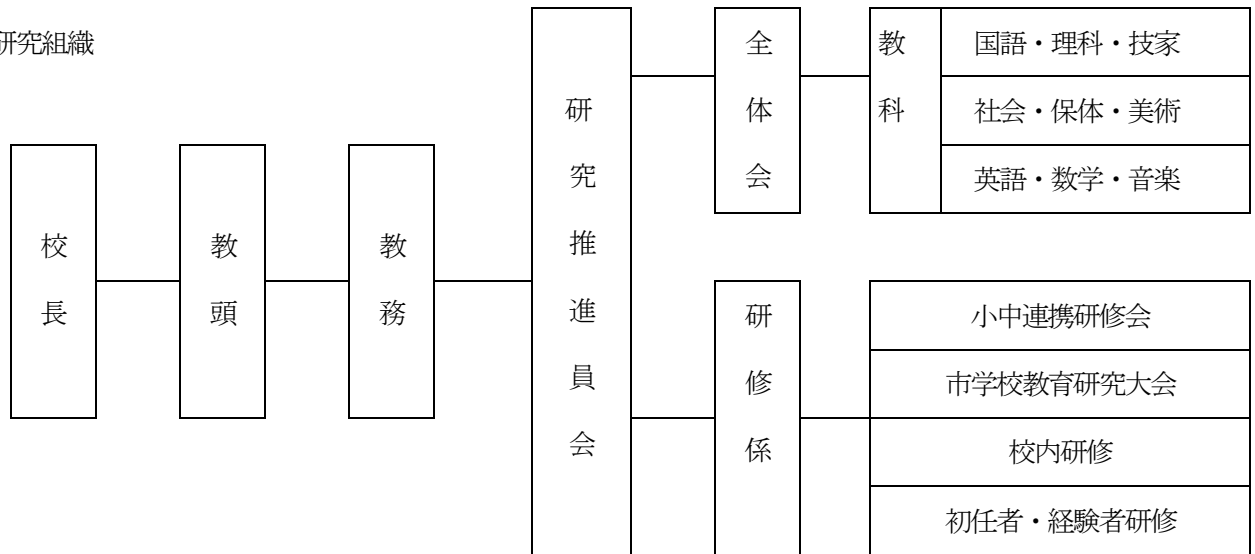
- 教科における言語活動を充実させることで、自ら考えようとする力を身につけ、表現につなげることができるのではないか。

研究の仮説 2

- 個々の生徒が自立するとともに、互いに助け合い、学び合い、思いやりをもちながら、表現できる力を育むことができれば、よりよい生活を求める意識や行動力を身に付けさせることができるのではないか。

II 研究の視点と構想

1 研究組織



2 研究の視点

- 教科の特性に応じた言語活動の視点を明確にする。
- 生徒一人一人が学ぶ意欲を持ち、進んで問題解決ができる学習指導法への改善を図る。
- 生徒の実態や本校の特色に応じて、創意工夫を凝らした教育活動の実践に努める。

3 研究内容

- (1) 言語活動の充実
- (2) 学業指導の充実
- (3) 心の教育の充実

4 実践

研究テーマ

自ら考え判断し、表現できる力を育む教育活動の展開

～教科の時間における言語活動の充実を目指して～（1／2年次）

- (1) 各教科における指導計画の中から、言語活動の充実につながる単元を拾い出す。

【例】

各教科	目標	題材	実践
音楽	曲の雰囲気を感じ取ろう。	魔王	○ 曲の雰囲気を言葉で表現し、まとめ、発表しあう。

- (2) 研究テーマを取り入れた授業を行うときは、指導案の中に明記し、実践を行う。

平成22年度 校内研修

回	学期	月	日	曜	研修項目	研修内容	時間	分担・担当
1	1 学期	4	12	月	研究体制の確立	研修主題・年間研修等について	10	職員会議 研修係
2		5	24	月	生徒指導	家庭訪問を終えての共通理解事項等	60	生徒指導係・担任
3		6	10	木	教科A 小中連携研修会	研究授業及び授業研究	50 75	研修係（小中連携）
4		6	22	火	特別支援教育	特別支援生徒の共通理解	60	特別支援教育係
5		7	12	月	視聴覚教育（ICT支援）Ⅰ	視聴覚機器・情報機器の活用	60	教育方法 15：45～16：45
6	夏 休 み	8	2	月	ストレスマネジメント	ストレスマネジメントに関する研修	60	生徒指導係
7		8	20	月	学業指導 生徒指導（追加）	標準学力検査の分析 不登校に関する研修	60	学業指導係 生徒指導係（午後）
8	2 学期	10	4	月	教科B	研究授業及び授業研究	60	教科 授業者
9		11	8	月	人権同和教育	同和教育全般についての共通理解	60	人権同和教育係
10		12	13	月	道徳	講師依頼による研修 新学習指導要領	60	道徳係
11	3 学期	1	24	月	教科C	研究授業及び授業研究 （教科）	60	教科 授業者
12		2	14	月	視聴覚教育（ICT支援）Ⅱ	視聴覚機器・情報機器の活用	60	教育方法
13		3	7	月	年間研修のまとめ	年間反省 次年度の検討等	20	職員会議 研修係

国語科学習指導案

1 単元名 平和を築く

2 単元について

(1) 教材観

本教材はカンボジア難民の取材での二人の少女との出会いをもとに、戦争と平和について考えさせられる内容が描かれているルポルタージュである。視覚や聴覚に訴える表現を多用し、その場にいるような臨場感でカンボジアの現状が伝わってくるという特徴があり、例示や定義などの説明の方法を使い、筆者の主張をわかりやすく伝える文章にもなっている。筆者の主張を読み取ることで、人間らしく生きることについて、自分の意見を持たせ、戦争と平和について考えさせるのに適した教材である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、落ち着いた授業態度で学習に取り組んでおり、自分自身を伸ばしていきたいという意欲もある。しかし、人前で自分の意見を述べることに苦手意識をもっている生徒も多く、積極的に発表する生徒も限られている。グループにおける話し合い活動はきちんと行えるが、意見の確認にとどまることも多く、互いの意見を生かしながら高めあっていく段階まではなかなか進めないのが現状である。さらに充実した話し合いができるよう指導を工夫していく必要がある。

(3) 指導観

話し合い活動のマニュアルを活用することにより、自分の意見を躊躇することなく述べことができ、さらに練り上げていける話し合いにまで高めていきたい。また、話し合った内容をきちんと伝えていけるように発表の仕方についても工夫をしていきたい。

3 単元の目標

カンボジア難民の取材を通して書かれたルポルタージュを読み、目撃した二つの事例や定義部分に着目し、「戦争」「平和」についての筆者の主張を読み取ることができる。

4 単元の評価規準

次に掲げる評価規準に従って重点的に指導する。

評価の観点	評価規準	学習指導要領との関連
読む能力	① 事例や定義部分に着目し、人間社会の在り方や戦争と平和についての筆者の主張読み取ることができている。 ② ルポルタージュという文種の特徴をとらえている。	イ 文章の解釈 オ 読書と情報の活用
話す・聞く能力	③ グループでの話し合いを通して、互いの意見を生かしながら、考えをより深めている。	エ 話し合うこと
国語への関心・意欲・態度	④ 定義という説明の方法を手掛かりに、筆者の主張を考えている。 ⑤ グループでの話し合いに積極的に参加し、意見を練り上げようとしている。	

5 言語活動の充実を図るための授業の工夫

(1) 話し合い活動のマニュアルの活用

学習活動の中で、自分自身の考えを深めていくためには、意見の交流が不可欠である。昨年から、グループによる話し合い活動に取り組んできた。ある程度の成果はあったが、スムーズに進行できるグループとそうでないグループが出てきた。すべてのグループで話し合いがしっかりと行えるためには、話し合いマニュアル作成、道徳・学活・他教科の授業など全学習活動において、繰り返し意見交換を行っていく必要がある。そこで、話し合い活動のマニュアルを作成し、それにしたがって話し合い活動を行うようにした。中学生の場合、型がある方が、恥ずかしがらず話し合いができるという面もある。互いの考えを生かし合う話し合い活動を展開したい。



(2) 発表の工夫

話し合った内容をしっかりと交流していくためには、発表の仕方についても工夫が必要である。これまで、グループの代表者として発表する場合も、声がでなかったり、聞き手の準備ができていないにもかかわらず話し始めてみたりという生徒が見受けられた。これは、聞き手を意識して発表する習慣が身につけていないことが原因であると

考えられる。代表として前に出て発表することにより、聞き手を意識した発表ができるよう指導していきたい。

6 単元の指導計画 (全4時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価
1	1	<ul style="list-style-type: none"> カンボジア難民の現状を表す写真を見る (インターネット上の写真をデジタルテレビで提示) ルポルタージュという文種について知る 「平和築く」を読み、文種や内容に対する感想を書く。 感想の交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 現実に行っていることだと実感させ、教材を読んでいこうという意欲を持たせる。 既習の教材との違いについて考えていくという視点を持たせる。 時間・字数などの条件を設定し内容や文種について考えさせる。 	評価規準 ②③⑤ (ワークシートへの記述・発表・話し合いの観察)
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ルポルタージュという文種の特徴についてまとめる。 新出漢字・難語句を学習する。 前半部分を読み、二つの事例から筆者が学んだことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の発表内容を参考に視覚・聴覚に訴える表現に着目させる 辞書引き競争 早く、正確に辞書を引いていけるように意欲付けを行う。 教材に書かれた内容から自分自身のことばに置き換えて表現させる 	評価規準①②③⑤ (ワークシートへの記述・発表・話し合いの観察)
	3 本時	<ul style="list-style-type: none"> 説明の方法「定義」について知る。 後半部分を読み、定義の部分を探す。 辞書の定義と筆者の定義の違いについて考える。 筆者の主張についてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「定義する」ことが実感を持って理解できるように具体例を示す 辞書の定義と筆者の定義に着目させる。 自分の考えを持って話し合い、意見交換の中で練り上げていけるように、話し合いのマニュアルを活用させる。 	評価規準 ①③④ ⑤ (ワークシートへの記述・発表・話し合い活動の観察)
3	4	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の応用問題 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容の理解が確認できる文章問題で、習熟を図る。 	評価規準 ①④ (テスト)

7 本時の指導計画 (3/4)



(1) 本時の目標

辞書の定義と筆者の定義の違いについて考え、筆者の主張について話し合い、まとめることができる。

(2) 本時の実際

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点 (◎は言語活動充実の工夫)	評価
導入	1 広辞苑クイズを行う。 2 「定義」についての説明を聞く 学習課題 定義に着目し、「平和を築く」の筆者の主張について話し合い、まとめよう。	5分 一斉	・ 「定義する」ことが実感を持って理解できるように具体例を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">○○とは～である</div> ・ 説明の方法の一つであるということを意識させる。	○ 定義することについて理解し、目標を確認することができたか。 (評価規準④)
展開	3 「平和を築く」の後半部分を読み、定義の部分を探す。 4 定義部分を発表し、確認し合う。 5 辞書による定義と筆者の定義の違いについてグループで話し合う。 6 5で話し合ったことをもとに筆者の主張をまとめる。	10分 一斉 15分 個 ↓ グループ 15分 個 ↓ ペア	・ 辞書の定義と筆者の定義に着目させる。 辞書の定義 ↔ 筆者の定義 ・ 二つを比較できるように板書する。 ◎ 自分の考えを持って話し合い、意見交換の中で練り上げていけるように、話し合いのマニュアルを活用させる。 ◎ グループ代表を、前に出させて発表させる。 ・ 二つの定義の違いを含めて、筆者の主張をまとめさせる。	○ 定義部分を抜き出すことができたか。 (評価規準①④) ○ グループの話し合いや発表の中で考えを深めることができたか。 (評価規準③⑤) ○ 筆者の主張をまとめることができたか (評価基規①④)
終末	5 授業の反省や感想をまとめる。 6 学習のまとめ、次時の予告を聞く。	5分 一斉	・ 今日の授業の反省や感想をノートに記入させる。	○ 自己の変容を確認することができたか。 (評価規準①)

(3) 本時の評価

辞書の定義と筆者の定義の違いについて考え、筆者の主張について話し合い、まとめることができたか。

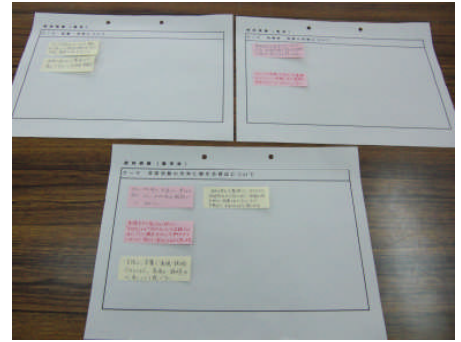
【話し合い活動マニュアル】

つかむ	A～Dのカードを引いてもらい、本日の発言順を確認する。(リーダーは班員にカードを引かせる) 「これから○○について話し合いたと思います。」
話し合う	「それでは、Aさんから意見を述べてください。自分の意見とともに、必ずそう思った理由も言ってください。」 「次に、Bさん、発言してください。その際、Aさんの意見に賛成か反対か、また、その理由も述べてください。」 「次にCさん、発言してください。その際、Aさん、Bさんのどちらの考えに近いのか、またその理由も述べてください。」 「最後にDさん発言してください。その際、前の3人の中でどの意見が一番近いのか、また、その理由も述べてください。」 「みんなの意見をまとめると、○班の方向性は～な意見にまとまるようです。」 「意見が二つの方向に分かれたようです。」 *さらに意見交換しながら、まとめる。
まとめる	「では、○班の意見は～というようにまとめたいと思います。」 「今回の発表は○○さんお願いします。」

2 校内研修（教科）授業研究より

（1）付箋紙の利用

昨年引き続き、研究授業を参観するにあたり、3つの視点から授業参観を行った。テーマごとに色の違う付箋に自分の意見を記入し、貼付し、これらをまとめて校内授業研究を行ったところ、より充実した意見交換が行われるようになった。



【第3回研究授業から】

1 指導案・指導の実際について
<ul style="list-style-type: none"> ○ 書画カメラを利用してイメージしやすく立体空間の苦手な生徒も理解しやすいのではと思いました。 ○ グループ活動を生かした展開をしていて、時間の中で課題を変更されたことがすばらしいと思いました。
2 板書・発問について
<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ活用がスムーズで普段から使っている感じが感じられました。生徒の解答や考えをテレビで発表に活用されることがあったら教えてください。（その効果と問題点）
3 言語活動の充実に関する視点について
<ul style="list-style-type: none"> ○ グループ内でお互いに声を掛け合いグループ活動が機能していてすばらしい。 ○ 生徒たちの気づきに対して「そうだよ」とか「ちがうよ」という正誤ではなく「いい視点だね」と声をかけていたことで学びも深まり、よかったですと思います。 ○ 生徒に言葉で表現・説明をさせることで、表現力・説明力が身につくと感じた。 ○ 自分の考えを整理して分かるように説明する力をつけるために、説明の仕方が細かく指導されているところが印象的で大切なことだと感じました。

3 各教科における言語活動の充実につながる単元

研修の中で、教科の単元の中で言語活動の充実につながる単元を出し合った。また、教科の中でどのような実践ができるかを、各教科部会で話しあった。

国語	単元・題材	○ 全ての単元の中で取り組む
	実践	○ 話し合い活動の充実→進行係・まとめ・発表者の分担
数学	単元・題材	・空間図形 ・確率 ・関数 来年度1年・・3章文字式4章1次方程式 2年・・4章図形の性質の調べ方（図形の性質の確かめ方）2章連立方程式 3年・・2章平方根（円周角の定理の活用）5章相似な図形（三角形の相似条件）
	実践	○ 立体模型を用いて捜査活動をし、まとめ、発表する。 ○ 実験や操作活動に取り組み、その結果をまとめ発表する。 ○ 実験や操作活動に取り組み、その結果をまとめ発表する。 ○ ペア学習、教えあい学習に取り組む。
社会	単元・題材	全ての領域
	実践	・ 相手に伝わる声量での発表活動 ・ 資料から自分の考えをまとめ、自分の意見をわかりやすく伝える活動
理科	単元・題材	実験
	実践	○ <u>予想→話し合い→学習課題→実験</u> おろそかになっている。教育課程の時数にとらわれず授業を行っていく。（重要な内容に時数をかける。）コミュニケーション能力 書くことの充実（ノートの等のまとめ方がうまいのも一つの言語活動の充実）先生が話したことも書いている子もいる。 訂正ノート、理科ノートなど 小黒板を使って各班で結果、考察を書かせ、発表させる。 教えあい（生徒同士） 自分の考えをしっかりと文章で書かせる。 実験の取り組む姿勢を養う。 → 操作に対して全ての生徒が取り組めるようにする。 <u>グループのメンバーが全員参加できる実験を行う。</u> → ○ ローテーションで役割を回す

英語	単元・題材	全ての題材において
	実践	全ての単元が言語活動の充実につながっているが、それぞれの単元において重点技能（聞く、話す、読む、書く）が異なるのでその単元の特色を生かした言語活動を実践する。
音楽	単元・題材	器楽（リコーダー） 歌唱教材
	実践	○ アーティキュレーション（音楽の抑揚や強弱、音型、ハーモニーメロディのまとまり感）を互いに出し合い、意見を基に表現する。 ○ 歌詞の内容からイメージする風景を思い浮かべ、絵に表現する。そして、描いた絵についての作品の想いや感想、着目してほしいところを文章で表現する。
美術	単元・題材	鑑賞（ゲルニカについて）
	実践	・ゲルニカの第1印象を発表し合う。 ・ピカソがゲルニカを描くに至った経緯を学び、「ゲルニカ」に対する印象の変化をワークシートにまとめる。
技家	単元・題材	・日本語ワードプロセッサを使おう ・技術と環境 ・エネルギー変換と生活
	実践	○ 作品作り（自分新聞など）を通して言語活動を学ぶ。 ○ 班ごとの話し合い活動により製品名や使用目的を考え発表する。
保体	単元・題材	全ての領域
	実践	・グループ活動の中で反省・評価する場を設定し、お互い発表し合う。（リーダーの育成が課題である。）

4 その他の研修

今年度はICT機器の研修も講師を招いて、3回行った。教師用パソコンの活用、学級における書画カメラの活用やパソコンの活用の研修を行った。視聴覚係と連携し、書画カ



メラを常時、設置し授業の中でICT機器の活用しやすい環境作りを行った。教科、道徳、学級活動等での活用が図られつつある。

V 成果と課題

- 教科指導の中で、目標を掲げたことで職員に言語活動の充実を視点に授業の工夫が見られた。
- ICT機器の研修を充実させたことで、職員の意識が高まり、実践・活用が図られた。
- 言語活動の充実を図るためには、リーダーの育成や学習の仕方を育成する必要があり、何のために言語活動が大切かを生徒の中に意識づけていくことが必要である。
- 各教科・道徳・特別活動の中で教育課程を見直し、生徒に身につけたい力を具体化し、年間を通して取り組んでいく必要がある。